

お詫び

わたしは今年4月より「艦これ検証部」(以下、「検証部」と記します)のメンバーです。この中で、わたしは数々の不適切な振る舞いをしてしまい、多くの皆様にご迷惑をお掛けしてしまいました。以下に経緯をご説明差し上げるとともに、深くお詫びいたします。

長文になってしまいますが、このような事態を招いてしまった経緯のご説明をいたします。

1. 「検証部に参加した経緯」のご説明

検証部代表、のいじ氏とは、少し前からの知り合いでした。のいじ氏からは、4月22日頃に「検証DBがそろそろ稼働する」旨を知らされ、その際に(検証部における)手伝いをしてほしいとご依頼をいただきました。このとき、のいじ氏からは、戦史の知識を生かした活動をご期待いただいております。

検証部のSkypeチャットにご案内いただいた際、「かつて公式ムックの仕事をしていて、戦史にも詳しいのでそちら方面からの推測も出来る人です」とご紹介をいただき、また、それに準じた経歴をお持ちの方がほかにいらっしゃらなかった事で、わたしはそれで気を良くしてしまいました。また、検証部関係者の酒席におよびいただいたこともあり、さらに気をよくしてしまいました。

検証部様からお声をいただくまで、このような形で、艦これプレイヤー間の酒席等にお呼びいただいたり、ご相伴にあずかるような事が年単位でなかったため、久々に、新しいお知り合いが出来たと喜んだ次第です。

自分にとって、検証部は楽しい場でした。このような場にお呼びいただけたことは、実のところ、非常に嬉しかったのです。ゆえに、検証部内の皆様の歓心を買う事を考えてしまいました。

検証部入りして当日より、皆様にいろいろな話を披露しましたが、わたしは、艦これの公式ムックなどの仕事からは、2年以上離れていたのが実態であり、内部情報に触れる機会はありませんでした。検証部内部では戦史の知識のみならず、内部事情について説明・解説する事を期待されていると思い込んだこともあり、思うことと実際の自分に大きな乖離が出来始めてしてしまいました。今思うと、この頃(16春イベント直前)には既に、大言壮語を繰り返してしまっていました。

2. 「検証部内の Skype チャットで、虚偽・大言壮語を繰り返していた件」のご説明

5月上旬以降、当時指摘されていた艦これ16年春イベントにおける品質問題のなか、検証部の内部で「艦これ運営内で、以前担当者が異動している。それにより品質低下が起きたのだろう」、「今回の品質問題で担当者の再異動があるので、以後の運営は改善されるだろう」との話をしてしまいました。

先に書いたとおり、わたしは実際には開発元の内部情報に触れる機会はありませんので、これは全く事実によらないものでした。(このとき具体的な名前をも出してしまいましたが、実在する人物の名前でもはなく、わたしの中で作り上げた架空の人物でした)

自分でもなぜこのような話をしてしまったのかはわかりません。ただ、この頃には自分の大言壮語が際限のないところまで行ってしまっており、自分でも理解が及ばない虚言を作り上げてしまっていたのだと思います。

5月30日頃に、びいかめ氏が署名活動をやめたいとのことから端を発した検証部内でのトラブルの際に、署名活動を解決するために立てられたという Skype グループチャットに呼ばれました。このときにわたしは知人や仕事上の付き合いがあった方の名前を冒用し、「この人がこのようなことを言っていた」などの筋立てを用いて説得力を補強していた事、虚偽を言い立てるのがエスカレートしていた事があり、このような事自体を、外部に知られたくはありませんでした。

この時、びいかめ氏が、氏の知人に、わたしの件を含めてお話しされたことを知ったので、びいかめ氏らを口止めする必要があると焦るあまり、「もしこの事が外部に漏れたら補償を求める」という、極めて不適切な意思をあらわにしてみました。

わたしは、自身の妄想だけでくみ上げた虚偽や不確かな噂をもとに話を組み立て、検証部内部に話をしてしまいました。

これは、誰にとっても益がなく、多くの方にご迷惑をおかけする事になってしまいました。返金署名活動に関わられた皆様はもちろんの事、検証部の皆様方、「艦隊これくしょん」開発元の皆様、そしてこの件を騒ぎを通じてお知りになった皆様、申し訳ありませんでした。

3. のいじ氏に、「南条の **Twitter** アカウント、**Skype** のアカウントを預かっていた」と虚偽をつくようお願いした経緯のご説明

6月6日から6月18日の間、昨年から患っている狭心症の発作で入院しており、この間、医師から、

「ストレスの原因となっている、**Skype**、**Twitter**、ネットの閲覧・書き込みは可能な限り避けて、少しでもストレスの解消になる事をするように」

と言われていたので、日常習慣の一部になっていた艦これで遊んでいました。

本来ならば、このような状況で、さらには入院中であるからにはプレイするべきでは無かったと思います。にも関わらず、プレイしていた事はまことに申し訳ございません。

この後、6月21日にびいかめ氏から送信いただいた **DM** をのいじ氏のアカウントで公開してもらい、その際に、「のいじ氏に、**Twitter** アカウント、**Skype** のアカウントを預けていた」とする件についてですが、

「のいじ氏に、**Twitter** アカウント、**Skype** アカウントを預けていた」
は、わたしからのいじ氏にお願ひした虚偽です。

こうお願ひした理由は、18日の退院後、わたしの件がさまざまな方面で取り沙汰されているのを知って恐怖を憶え、対外的には、まだ退院していない事にしたかったからです。

Twitter の **TL** や **リプライ**、通知で知った **Togetter** を見るのが怖かった事、そして医師から、自宅療養中も **SNS** や **ネット** への接触を出来るだけ避けるように言われていた事を拡大解釈し、可能な限り、それらに接しないよう逃亡していたので、その状態を継続しようとしていました。

これは、今思い返せば自らが引き起こした事態からの逃避そのものでした。

のいじ氏に対しては、自己保身のためにこのような虚偽をお願ひし、巻き込んでしまい申し訳ありません。

びいかめ氏に対して、このような不義理をして申し訳ありませんでした。また、この事でも騒ぎを大きくするような真似をしてしまい申し訳ありません。

4. 「退院から、現在に至る状況」のご説明

上記の通り、わたしは自分が引き起こした全ての不祥事から目を背け続けていました。

また、自身の虚偽や大言壮語に、これまで仕事やプライベートでお付き合いがあった方々を巻き込んでしまいました。これは、お詫びしてもしきれぬものではありません。

Twitter のフォロワー様や、現在、過去を問わずお付き合いがあった方、そして、検証部に関わる問題をご指摘される方からのコンタクトがありましたが、それからも逃げ続けました。お恥ずかしい話ですが、先日、古くからの知人の訪問を受け、安否の確認をされるに至り、もはやこのまま隠し立てをし、言い逃れを続けることはできないと考えるに至りました。

この事自体もあまりに遅きに逸し、申し開きすることもできません。

知人を介して、みなさまにお詫びをしたいと助けを求めました。何人かの方がこれに応じてくださり、そこでようやく自分のこれまでの行いに向き合うことができました。最後の最後まで、自らの意志で事情を明らかにし、お詫びをすることができませんでした。

自分で蒔いた種をきちんと処理できなかったのは、ひとえにわたしの至らなさにあり、本当に申し訳ありませんでした。

5. 「お詫びの最後に」

今回、わたしが招いた不祥事の全ての発端は、わたしが自らを大きく見せようと、虚偽を弄した事が原因であります。巻き込むべきではなかった人を巻き込み、古くからの知人・友人を裏切り、騒ぎを大きくしてしまい、大変なご迷惑をお掛けしてしまいました。本当に、申し訳ありませんでした。

今後、商業、及び、同人での活動を無期限で停止いたします。

検証部の皆様、本当に申し訳ありません。身勝手なことではありますが、これを機に検証部から脱退させていただきたく存じます。

返金署名活動にお関わりになった皆様、本当に申し訳ありませんでした。

業務上、そしてプライベートでお付き合いをいただいた皆様のご信頼・信用を裏切り、ご迷惑をお掛けしてしまった事、本当に申し訳ありませんでした。

わたしの舌禍により、騒ぎが大きくなった事で、「艦隊これくしょん」プレイヤーの皆様、そして開発元・運営元の皆様にご迷惑をお掛けしてしまった事、本当に申し訳ありませんでした。

この事でご指摘を賜った皆様、皆様にきちんと向き合わず、不適切極まりない対応をしてしまった事、深くお詫び申し上げます。

事ここに至り、それでもわたしの話を聞いてくださった方に、改めてお詫びし、深く御礼を申し上げます。

2016年6月27日

南条 匡